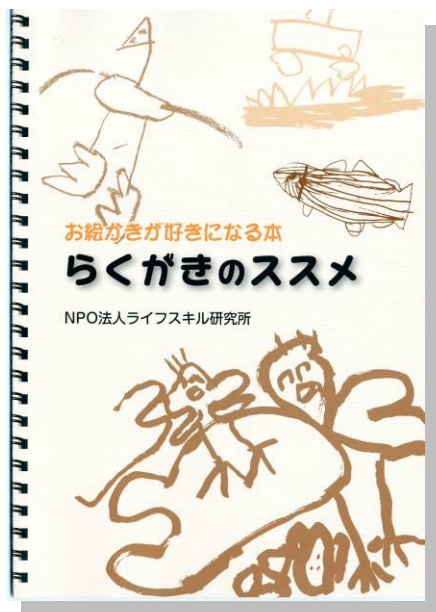


みんなで作ったステンドグラス—“アートでスカッと！”クリスマス・イベント(五月山児童文化センター)



道ばたにロウセキでらくがき。校庭の地面に木の棒でお絵かき。広告の裏に気に向くままグルグルがき—かつて子ども間でよく見られた光景です。

しかし、そんな光景を目にすることもめっきり少なくなりました。環境の変化もあります。子どもの世界からお絵かきが消えつつあるようです。

たいていの子は、生後1年半ほど経つと自然と「かく」ことを始めます。大人の使う筆記具に興味を持ち始め、そのまねごとから始まって、しだいに腕や指の動きも滑らかになり、自在に線が引ける

らくがきのススメ

～絵をかいて生きる力をつけよう～

よくなると、紙や壁、タンス(!)など、彼らのキャンバスは無限に広がっていきます。表現への意欲が芽生えるこの黄金のタイミングを見逃さず、適切な動機づけやサポートにつなげてもらうため、「お絵かきが好きになる本 らくがきのススメ」をつくりました。

子どもがあまりお絵かきをしなくなった背景には、例えば大人が紙とエンピツといった旧式の筆記具を使うことが減った、というようなことも考えられます。また、最近の家は昔の家に比べ総じて小ざれいなので、散らかしたり汚くすることに親が敏感になりがちです。そこで、お絵かきが「部屋を汚くするから」ということで、避けられる傾向にあるようです。

そんな時、ただ「ダメ、ダメ」と禁止するばかりだと、せっかく芽吹いた創造性を抑えつけることになってしまいます。そうではなく、いっしょに楽しみ、コミュニケーションながら子どもの表現力を支援するような関わり方ができれば、子どもは自信をもつようになるでしょう。幼少期に健全な自己肯定感をもつことができれば、

あとの人生を生き抜く大きな力になります。

その他、お絵かきをする際の約束ごとや、「かいて、かいて！」とせがまれた時の対応の仕方、身近な生活の中から造形感覚を磨く方法などをご紹介します。

日々のちょっとした心がけで、子どもの創作活動を支援することができます。幼少期、特に学齢期前の子どもにとってのお絵かきは、上手に描く、人に見せて褒められるために描く、といった、もっと大きくなってからの意識とは違う、いわば純粋に内的な欲求や必然性から生まれます。それだけに、幼児期の絵は、描いた子そのものであり、その子について、とても多くのことを表わすメディアでもあるのです。

本冊子はホームページからダウンロードできます。ぜひ一度ごらんください。
<http://lifskill-npo.org/>

※本冊子の制作にあたり池田市公益活動助成金の助成を受けました。

今、あえて阪神・淡路大震災を思う

12月23・24日の2日間、東京・上野の東京藝術大学で開かれた日本芸術療法学会全国大会に参加しました。近年の傾向として、ダンスや音楽などパフォーマンス系セラピーの発表が目立ちます。特に今回は「音楽」が大会のテーマであったこともあり、いっそう顕著だったように思います。東日本大震災被災地での活動に関するものもあり、その中で阪神・淡路大震災に言及した発表があって、あらためてその後の新たな胎動の起点となったあの震災に思いをはせました。直下型地震であった阪神・淡路大震災(1995年1月17日午前5時46分発生)は、今般の震災に比べると被害が局地的だったといえますが、当時としては私たちが経験した最大級の震災でした。いつ止まるともしれない揺れに布団の中で体が硬直したこと、まるでシュレッダーをかけた紙片のように壁が崩れ落ちた神戸三ノ宮駅前のビルの光景は、今も忘れることができません。悲愴きわまりない出来事でしたが、今までになかった新しい潮流がそこから始まったのも事実です。その後の市民公益活動の盛り上がり(1998年NPO法成立)、メンタルケアへの意識の高まり—芸術療法が注目されるようになったのも阪神・淡路大震災がきっかけでした。そして、医療・保健、メンタルヘルス、まちづくり、ボランティア活動など様々な実践と経験の集積が一種の集合知のようなものを形成していったように思います。あのプロセスを通して、私たちは個々の経験を超越集団として多くのことに気づいたのではなかったでしょうか。悲惨な現実にもまわられた時、物理的な支えだけでなく心理的・精神的な支えに思い至るのが人間。芸術(療法)にできることは、物的支援の及ばない領域に生じる心の痛みや喪失感に寄り添うことかもしれません。(小村みち)

子どもの絵のはなし② ～チエ子のコラム～



切られた公園の柳の木—ある日、子どもたちと公園にスケッチにでかけたら、四隅に植えられていた4～5本の柳の木がが全部切り倒されていました。ブランコに駆け寄ったA子が「いやや!柳の木がない!いつもブランコしながらこの木の葉っぱを触って遊んでたのに。なんで、なんで、なんでないの!」と騒ぎます。他の子たちもがっかりした様子。彼らにとってブランコと柳は一体となって気持ちを落ち着かせる役割を果たしていたのだと気づきました。特にA子にとっては深く感情に影響を及ぼす存在だったようです。イライラする彼女に、ふと「あの柳を描いてみたら?」と提案すると、彼女はスッと落ち着きを取り戻し表現し始めました。木が存在することの意味、表現が情緒に及ぼす影響を考えさせられた出来事でした。(理事長 小村チエ子)

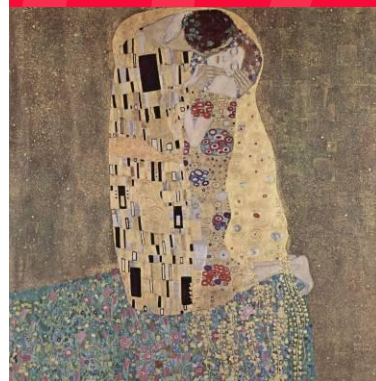
活・動・色・彩～かつどういろいろ～

- 9/25(日)●第8回ライフスキル・アート研究会@池田コミュニティセンター●割り箸からくり工作/ハガキ・コラージュ/子どもの退行作品ケーススタディ
- 9/30(金)●子どもべやお料理教室@伏尾台第1コミュニティセンター
- 10/4(火)●子どもべや室町幼稚園教室体験レッスン@室町幼稚園
- 11/1(火)・4(金)●室町幼稚園特別授業(年少～年長)@室町幼稚園
- 10/30(日)●図書館まつりミニ講演&ワークショップ「絵ではなそ!」@池田市立図書館●小村チエ子
- 11/7(月)●子どもべやハローワーク見学
- 11/22(火)●講演@吹田市立千里第2幼稚園●小村チエ子
- 11/27(日)●第9回ライフスキル・アート研究会@池田コミュニティセンター●ボディペインティングによる樹木画の変化/芸術療法セミナー報告/幼稚園児作品ケーススタディ
- 12/2(金)●子どもべや生活美術「クリスマスリースをつくろう」
- 12/3(土)●アートでスカット!「クリスマスのアートワーク」@五月山児童文化センター
- 1/13●室町幼稚園特別授業(年長)@室町幼稚園



■発行:NPO 法人ライフスキル研究所 ■編集:小村みち
〒563-0017 大阪府池田市伏尾台 1-32-17
TEL072-750-2797 FAX072-750-2805 E-Mail info@lifeskill-npo.org
URL <http://lifeskill-npo.org/> Blog <http://lifeskill.blog.so-net.ne.jp/>

Information



Gustav Klimdt

グスタフ・クリムト(1862-1913)

オーストリアの画家。ウィーン分離派(ゼツェション)など先進的な活動を通じて世紀転換期の美術・デザイン界に大きな影響を及ぼした。今年生誕 150 周年。上は代表作の「接吻」。

アートスペース子どもべや 生徒募集中

- 伏尾台教室:第1・2・3(金)
対象:3歳～小6
- 室町幼稚園教室:第1・3(火)
16:10-15:30@室町幼稚園
対象:同園の園児
- 池田教室:第1・3(火)16:00-17:15
@池田コミュニティセンター
(※現在、募集未定)
- ★詳しくはお問合せください

2012 年度 研究会のお知らせ

- 日程:後日 HP にてお知らせ
- 場所:池田コミュニティセンター
- 会員 1,000 円 一般 2,000 円
- ★詳しくはお問合せください

会費納入のお願い

- 2011 年度の会費がお済みでない方はお早めにお問い合わせいたします。
- 正会員 8,000 円
- 賛助会員 10,000 円(1口)
- 振込先■
- ①池田泉州 BK 池田駅前支店
普通 6013901

研修・講演・ワークショップ講師
派遣します。ご依頼・お問合せ
は事務局まで。